

学 年	教科等	単元名	日 時
第 1 学年	生活科	みんな、あそぼうよ！（むかしのあそび）	令和 2 年 1 月 31 日（金）2 校時
本時における 「深い学び」	幼稚園児に配慮して、幼稚園児が遊びやすくなるような工夫を試行錯誤しながら考える学び。		

本時までに・・・



冬探しを行った際に、風が強いことに気付いた子どもが多く、「風揚げをしたいな。」という意見が出たことから、昔から伝わる遊びをすることになった。

あえて説明しない状態で遊ばせることで、「遊び方が分からない」「何が面白いのか分からない」「やり方は分かるが難しくてできない」ことから、誰かに教えてもらいたいという思いをもたせた。



地域の方やおじいちゃん・おばあちゃんに、昔の遊びを教わる交流会を行った。
遊び方やコツを教わることで、遊びや年上の人とふれあう楽しさを味わうことができた。



「昔の遊び名人（地域の方やおじいちゃん・おばあちゃん）」に教わったことで、「もっと遊びたい」「もっと上手になりたい」という思いが高まったため、名人を目指して、遊ぶ練習をする時間をとった。名人に教わった人が名人になり、友達に教える姿が見られた。

本時は・・・



幼稚園児に伝わりにくい説明を演示することで、問題意識をもつことができるようにした。



昨年の様子や前単元で行っていた工夫を紹介することで、本時の活動へ見通しをもたせた。



アイデアタイム



どんなふうに教えたら分かりやすいかなあ。



風があれば、簡単にめんこがひっくり返せるんだけど・・・。



相談タイム



同じ遊びを選んだ友達と、考えを伝え合ったり、分からないことを尋ねたりした。

別な遊びを選んだ友達の意見を聞いて、アイデアが浮かんだ人も見られた。



一人で、教える方法を考えた。実物のおもちゃで試したり、材料を見ながら考えたりする姿も見られた。

報告タイム



どんな方法で教えるのか、考えたことを紹介した。

考えを分類すると、「遊びやすいおもちゃを作ること」「ルールや遊び方を簡単にすること」「分かりやすく説明すること」が工夫のひみつだということが分かった。

ふりかえり

③ ふりかえり

はじめに、ばとりの手で"ひろげ"るとかんたんだったことに気づきました。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

7 本時の目標

幼稚園児に配慮して、幼稚園児が遊びやすくなるような工夫を考えることができる。

8 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びタイム（教師の演示） ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">幼稚園生がきらきら遊べるひみつを見付けよう。</div> <p>2 学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アイデアタイム（一人調べ） ○ 相談タイム（グループでの意見交換） ○ 報告会（全体での伝え合い） <p>3 遊び方を伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アイデアタイム（一人調べ） <ul style="list-style-type: none"> ・「こまを教えたいな。紐を巻くのは難しいから、紐を巻かないこまを作りたいな。」 ・「だるま落としは、そのままだと難しいな。だけど、部品を数を1つにしたら簡単すぎてつまらないな。…そうだと、数は変えないで、どれか1つを落とすルールにすればいいんだ！」 ○ 相談タイム（グループで意見交換）【例】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> A児「紐を巻かなくても回るこまを作りたいのだけど、どうしたらいいかな。」 B児「『秋のお店屋さん』のときに、どんぐりごまを作ったよね。あんなふうにしたらどうかな。」 C児「あやとりを教えたいけれど、どうやって教えたらいいいかな。」 D児「名人さんは写真を見せてくれたけど…。」 C児「写真は無理だね。…絵だったらいいかな。」 </div> <p>4 考えた方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 報告会（全体での伝え合い）【例】 <ul style="list-style-type: none"> ・「画用紙とつまようじで、こまを作ろう。」 ・「だるま落としは、1個だけ落とすことができたらいルールにしよう。」 ○ 気付きの質の高まり【例】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C児「あやとりの説明の仕方がわかりません。」 E児「お手本を見せながら、二人で一緒にしたらどうですか。」 C児「なるほど！友達にお手本を見せてもらいながら、あやとりをしたらよいですね。」 </div> <p>5 本時学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫の視点の提示 <ul style="list-style-type: none"> ・ おもちゃの作り方 ・ 遊び方 ・ 説明の仕方 ○ 新たな思いや願い <ul style="list-style-type: none"> ・「こまは、簡単なものと難しいものを作っておくと、選んでもっと楽しくなるね。」 ・「おうちでも、もっと工夫を考えてみよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園児に伝わりにくい説明を演示することで、問題意識をもつことができるようにする。 ○ 問題を解決するためには、どうしたらよいのか問うことで、「幼稚園生のことを考えて、準備をしなくてはならない」という思いを高められるようにする。 ○ 前単元「秋のお店屋さん」で見られた工夫を紹介することで、本時の活動への見通しをもつことができるようにする。 ○ 個人思考の際に試行錯誤させる時間を確保することで、浮かんだアイデアや疑問等を友達に伝えたいという気持ちを高め、グループでの意見交流が深まるようにする。 ○ 遊び道具そのものや遊び道具作りに使えるような材料にふれさせることで、いろいろ考えながら試すことができるようにする。 ○ アイデアタイムのときに考えたことを途中までも伝え合わせることで、思いを確かにしたり、友達のように気付いたりすることができるようにする。 ○ 疑問を尋ねさせることで、困り感を共有し、解決できなくても、友達と考える楽しさを味わうことができるようにする。 ○ 出された意見を分類しながら板書することで、幼稚園児に配慮するための工夫には、いくつかの視点があることに気付くことができるようにする。 ○ グループで生じた困り感を全体場で発表させ、これまでの学びから解決方法を話し合わせることで、左記のように気付くことができるようにする。 ○ 配慮するための工夫の視点を明らかにすることで、自分の計画を見直したり、よりよい方法に気付かせたりし、気付きの質を高めることができるようにする。 ○ 次時は、交流会の準備を始めることを伝えることで、相手への思いや活動への意欲を高めることができるようにする。

9 本時の評価規準

幼稚園児に配慮して、「道具の仕組みを簡単にする」「難易度を下げる」「分かりやすい言葉等で説明する」等の、遊びやすくなるような工夫を考えて、友達に伝えている。 （思考・判断・表現）【観察・学習プリント】